

バドミントン選手の意識に関する研究

A Study on the Consciousness of Badminton Players

1K10C273-3 寺村佳

主査 関一誠 先生

副査 渡辺英次 先生

【目的】

私は中学校入学と同時にバドミントンを始め、現在は早稲田大学のバドミントンサークルにてバドミントンを続けている。約10年間続けてきたこの種目についてさらに深く追求したいと考えたため、今回バドミントンに関するアンケート調査を実施した。

特に今回はショットやゲームに関する考え方に焦点を当てる内容のアンケートとなった。理由は2つある。まず一つ目に、私自身がバドミントンを行ってきた過程で、得意なショットや苦手なショット、考え方などが変化してきたことから、それらのことは競技レベルと関係しているのではないかと考えたからである。もう一つの理由は、バドミントンという種目において男女でショットや考え方に違いがあるのかという疑問をずっと抱いており、その答えを見つけたかったからである。

【方法】

早稲田大学の体育会バドミントン部およびバドミントンサークル（バドミントン同好会・友羽会・J-Birds）に所属している学生を調査対象に、無記名での質問紙調査を実施した。調査対象には練習開始前にアンケート用紙を配布し、終了時に回収した。

今回のアンケートでは競技レベルごとに分ける必要があるため、事前にS、A、B、C、Dの5段階に競技レベルの基準を設けたうえで調査を行った。

また今回実施したアンケートのデータの集計および分析は統計処理ソフトPASW Statistics 18を利用した。質問1～6は選択式になっているためそのままデータ処理を行ったが、自由記述である質問7については4人以上が同じ回答をした項目のみを集計し、残りは「その他」としてまとめた。

【結果と考察】

得られた有効回答数は152部であり、その内訳は男性が83人（54.6%）、女性が69人（45.4%）だった。

性別の違いは攻撃型・守備型や前衛・後衛と関係しているのかについて分析した。回答結果としては性別や競技レベルを考えずに見てみると、攻撃型と答えた人数の方が守備型よりも多く、後衛が好きと答えた人数の方が

前衛よりも多かった。このような結果になったことについて、回答者に男性が多かったことが影響しているのではないかと考えた。つまり男性には攻撃型および後衛が好きな人が多く、女性には守備型および前衛が好きな人が多いと予想したのである。

そこで男女別に回答結果を集計してみると攻撃型の人は男性で57.8%、女性は55.1%となっており男女の間でほとんど差がなく、後衛が好きな人は男性で50.6%、女性で56.5%となり、私の予想に反して女性の方が多いという結果になった。これまでの競技経験やゲーム展開から男性の方が攻撃型、後衛好きが多いと思い込んでいたが、よく考えると攻撃型の人もいれば守備型の人もいるからこそ試合が成り立つとも考えられる。そう捉えると男女ともに攻撃型と守備型がおおよそ半々になった今回の結果は当然のことのようにも思われる。前後衛の結果に男女差が無かったのも同じ理由からであろう。

以上のことより、攻守や前後衛と性別との間には大きな関連性がないという結論を出した。

【結論】

今回の研究を通して、バドミントンのショットやゲームに対する考え方においては競技レベルよりも男女による差の方が大きいと感じた。私の予想に反して「攻撃型か守備型か」や「前衛と後衛のどちらが好きか」という質問に対する回答は男女差がなかったが、その他の項目、とりわけゲームに対する考え方を問う「ダブルスで最も重要なことは何だと思いますか」という問いに対する回答結果には男女ではっきりと違いが出た。

また、競技レベルよりも男女による差の方が大きいとは言ったが、もちろん項目によっては競技レベルによる差の方が大きいものもあった。最も差が生じたのは「コート奥で最も得意なショットは何か」という質問に対する回答結果である。「カット」という回答の割合が最も競技レベルの高いSランクで58.3%、最も競技レベルの低いDランクで12.0%となった。このように競技レベルによって回答結果に差が出た項目については、今後の競技生活に生かし、競技レベルの向上につなげていきたいと考えている。